

## 行動計画

環境安全委員会では、行動計画の進捗状況や法的・社会的情勢などを踏まえ、4月に開催する総会で単年度および中期的な行動計画を審議・決定しています。

2015年度は、前年度に引き続き、地球温暖化対策、省資源・廃棄物対策、化学物質管理、労働安全衛生活動を重点課題とし、計画的に活動を推進しました。また、会員企業単独では解決しにくい課題や、今後環境安全委員会が取り扱うべき課題についても、外部団体や専門家からの情報収集に努めました。環境安全委員会では、これらの活動や情報を定期的に発行する情報誌や調査報告書あるいは対策事例集などにまとめ提供することにより、会員企業の環境保全、労働安全衛生への取り組みを支援しています。

2015年度は、以下の環境保全に関する課題に数値目標を設定し、活動を推進しました。また、労働安全衛生に関する課題については、労働災害の発生状況、営業車両の交通事故発生状況と対策について、会員企業の取り組み状況、パフォーマンスデータを調査し、調査結果を報告書にまとめ発信することにより、会員企業による情報共有に努めました。

なお、製薬業界の環境保全に関するこれまでの取り組み経緯は、31頁に記載しています。

## 地球温暖化対策

### 2020年度の製薬企業のCO<sub>2</sub>排出量を、2005年度排出量を基準に23%削減する。

1997年度から経団連自主行動計画(地球温暖化対策編)に参加し、2012年度を最終年とする地球温暖化対策に関する自主行動計画を策定しました。会員企業に参加を呼びかけ、CO<sub>2</sub>排出量削減活動を継続してきました。東日本大震災・原発事故の影響で電力の炭素排出係数が悪化したことにより、数値目標の達成には至りませんでした。2013年度からは、新たに始まった低炭素社会実行計画の目標の達成を目指し、日薬連環境委員会に設置されたフォローアップワーキンググループとの協働体制を強化し、低炭素社会実行計画の着実な推進に取り組んでいます。

## 省資源・廃棄物対策

### 2015年度の産業廃棄物最終処分量を、2000年度を基準に65%程度削減する。

1997年度から経団連環境自主行動計画(循環型社会形成編)に参加し、数値目標を設定して廃棄物の削減対策を行ってきました。これまで、廃棄物の最終処分量、最終処分率(発生量に対する最終処分量の割合)、廃棄物発生量を着実に削減し目標を達成してきました。2011年度からは第4期自主行動計画として、日薬連と歩調を合わせ共通の数値目標を設定し、廃棄物の最終処分量の削減に向け積極的な取り組みを継続しています。

## 化学物質管理

1997年度から製薬業界で比較的使用量が多いジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン、クロロホルムなどの有害大気汚染物質の大気排出量に対する数値目標を設定して削減対策に自主的に取り組んできました。数値目標達成を受け、2001年度(第2期計画)、2005年度(第3期計画)に数値目標設定の見直しを行い、取り組みを継続してきました。第3期自主行動計画の最終年度である2007年度の達成状況から、製薬協としての当初の目的は十分に達成したと判断し、その後は新たな数値目標を設定せず、これまでの取り組みを継続することとしています。



## 行動計画の進捗状況

環境安全委員会では、地球温暖化対策、省資源・廃棄物対策、化学物質管理、労働安全衛生活動の推進など、専門部会が単年度および中期的な行動計画を作成して取り組んでいます。また、業界上部団体や国あるいは社会とのコミュニケーションについては、

専門部会と連携し、企画会議が窓口となり対応しています。

2015年度における環境安全委員会の取り組みおよび行動計画の進捗状況は以下のとおりです。

### ◆ 地球温暖化対策

2015年度のCO<sub>2</sub>排出量は183万トンであり、基準年度である2005年度の排出量242万トンに対して25%(59万トン)の削減、前年度比では0.5%(1万トン)の削減となりました。2020年度の目標である186万トンに対して、4万トン下回りました。

医薬品市場の拡大によるエネルギー需要の増加に対し、生産活動の効率化や最先端技術の導入などに積極的に取り組んだ結果、

CO<sub>2</sub>排出量の削減が図られました。今後も、エネルギー転換の継続実施に加え、会員企業の省エネ実施事例の情報を共有し、最先端技術の導入、製造工程の改良などに取り組み、目標達成に努めていきたいと考えています。

### ◆ 省資源・廃棄物対策

製薬協は、日薬連と協働で経団連環境自主行動計画(循環型社会形成編)に参加し、1997年度から毎年、自主行動計画参加企業に対して産業廃棄物の発生量削減や最終処分量削減などの取り組み状況のフォローアップを行っています。2011年度からは、産業廃棄物の最終処分量の削減のほかに産業廃棄物発生量や処理方法の詳細についてもフォローアップを継続しています。

行動計画の最終年度である2015年度の最終処分量は5.8千トン

であり、前年度から0.3千トンの減少、基準年度(2000年度)に対しては80%の削減となり、行動計画の数値目標を達成しました。今後は2016年度以降の循環型社会形成自主行動計画の目標の達成を目指し、2015年度から日薬連環境委員会に設置されたフォローアップワーキンググループとの協働体制を強化し、循環型社会形成自主行動計画の着実な推進に取り組んでいます。

### ◆ 化学物質管理

ジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン、クロロホルムの大気排出量削減を目標とした第3期自主行動計画では2007年度にその数値目標を達成したことから、製薬協としての当初の目標は十分に達成できたとの判断に至りました。その後は新たな数値目標を設定せず、これまでの取り組みを継続することとし、フォローアップを継続しています。2015年度の化学物質排出把握管理促進

法(PRTR法)における第1種指定化学物質の環境排出量は283トン(2002年度比84%減)で、前年度より66トン増加しました。揮発性有機化合物(VOC)101物質の大気排出量は1,847トンで、前年度より65トン増加しました。今後も、会員企業における技術情報の共有に努め、会員企業の自主的な削減の取り組みに働きかけていきたいと考えています。

省資源・廃棄物対策や化学物質管理に関する製薬協の行動計画は順調に推移してきました。また、地球温暖化対策については、2013年度から低炭素社会実行計画がスタートし、順調に推移しています。

今後、製薬協の会員企業は、低炭素社会形成、循環型社会形成など産業界全体で取り組んでいる活動を引き続き推進し、特に、地

球温暖化対策および省資源・廃棄物対策については、日薬連傘下の他団体と協働して、行動計画の目標達成に向けて最大限の努力をしていきます。また、化学物質管理や労働安全衛生に関しては、各調査を継続し会員企業の現状把握を行うとともに、有用な対策事例の情報共有により、業界全体のレベルの向上を目指していきたいと考えています。

## 2015年度行動計画の達成状況概要

項目	2015年度の計画	2015年度の実績
省エネ・地球温暖化対策	<p><b>数値目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2020年度の製薬企業のCO<sub>2</sub>排出量を、2005年度排出量を基準に23%削減</li> </ul> <p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●低炭素社会実行計画フォローアップ</li> <li>●省エネ・地球温暖化対策技術研修会開催</li> <li>●地球温暖化対策に関する調査とフィードバック</li> <li>●効率的なMR営業車の使用推進</li> </ul>	<p><b>進捗</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2015年度のCO<sub>2</sub>排出量は、基準年度比-25%</li> </ul> <p><b>活動実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日薬連に協力して、フォローアップ調査を実施し、結果を経団連ならびに厚労省に報告</li> <li>●技術研修会開催</li> <li>●営業車の燃料消費量、HV・EV車導入率の調査実施</li> </ul>
省資源・廃棄物対策	<p><b>数値目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2015年度の産業廃棄物最終処分量を、2000年度を基準に65%程度削減</li> </ul> <p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●経団連環境自主行動計画(循環型社会形成編)フォローアップ</li> <li>●会員企業への3R推進のための情報提供</li> <li>●外部団体との連携</li> </ul>	<p><b>進捗</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2015年度の最終処分量は、基準年度比-80%</li> </ul> <p><b>活動実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日薬連に協力してフォローアップ調査を実施し、結果を経団連に報告</li> <li>●フォローアップ調査結果を会員企業にフィードバック</li> </ul>
化学物質管理	<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●PRTR、VOCに関する調査とフィードバック</li> <li>●化学物質の大气排出削減技術の調査とフィードバック</li> <li>●医薬品の環境リスク評価に関する情報調査</li> </ul>	<p><b>活動実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●PRTR、VOCに関する調査とフィードバック実施</li> <li>・2015年度のPRTR物質の環境排出量は2002年度比-84%</li> <li>・2015年度VOCの大气排出量は1,847トン</li> <li>●医薬品の環境影響とリスク管理に関する情報収集</li> </ul>
労働安全衛生	<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●労働安全衛生活動に関する各種調査とフィードバック</li> <li>●従業員の健康維持・増進対策調査とフィードバック</li> <li>●安全衛生に関する技術研修会開催</li> <li>●労働安全衛生の取り組みの見学会開催</li> <li>●営業車両の事故防止研究と対策調査・フィードバック</li> <li>●化学プロセスの安全性評価研究の推進</li> <li>●高薬理活性物質の取り扱いに関する研究の推進</li> </ul>	<p><b>活動実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●労働災害発生状況に関する調査とフィードバック実施</li> <li>●同業および異業種の労働安全衛生の取り組みの見学会の実施</li> <li>●安全衛生に関する技術研修会開催</li> <li>●営業車の事故対策状況、車両事故に関する研究・調査実施とフィードバック</li> <li>●化学プロセスの安全性評価に関する情報交換、講演会、見学会実施</li> <li>●高薬理活性物質の取り扱いに関する情報収集・情報交換</li> </ul>
その他の課題	<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●環境・安全衛生に関するタイムリーで適切な情報発信(環境報告書、かんきょうニュースなど)</li> <li>●業界内外との協働・双方向コミュニケーション推進</li> <li>●生物多様性に関する技術研修会開催</li> <li>●環境安全講演会、各種技術研修会などの開催</li> </ul>	<p><b>活動実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●環境報告書2015発行</li> <li>●かんきょうニュースを4回発行</li> <li>●環境安全委員会2015年度成果報告集を会員各社に配布</li> <li>●他の委員会との情報交換・協働、日薬連環境委員会に参画</li> <li>●環境安全講演会、環境および安全衛生に関する技術研修会などを開催</li> </ul>